

鯖街道 熊川宿

平成23年8月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会
福井県三方上中郡若狭町熊川
TEL/FAX (0770) 62-0330
熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



白石神社祭礼(平成23年5月3日)

慎ましく厳かに 白石神社祭礼

宵宮祭で本殿にて子どもたちがお囃子を奉納し、本日の午前中には高木龍彦宮司による神事が執り行われました。

例年ですと山車の巡行を行いますが、今年のは先の東日本大震災の影響により巡行は行わず、本陣横にて展示を行いました。

熊川の山車と見送り幕は、文化庁・県・町のご支援ご協力により平成14年に復元が叶い、翌年から春の祭りと秋の時代村で巡行を行ってきましたが、今回、復元して初めて巡行のない祭礼となりました。

本陣に集まった子どもたちは、山車の前でお囃子を奉納した後、歩いて区内を廻り各所でお囃子数曲を披露し、出迎えた住民が温かく見守っていました。中高生にも参加していただき、大杉を含む熊川区内全域を廻りました。また御祝儀の一部は震災の義援金に充てられました。

被災地の一日も早い復興をお祈りして、来年はまた賑やかに山車の巡行ができるよう願っています。

目次

白石神社祭礼	1
寄稿文	2
寄稿文・事業計画	3
事業報告・寄稿文	4
寄稿文・活動報告	5
活動報告・名所紹介	6

安全と安心のまちづくり

平成23年度熊川区長 宮 本 哲 男

去る5月18日～20日の全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会が滋賀県東近江市(八日市・五個荘金堂地区)で開催されました。毎年、開催されておりますが、遠方が多く、河合健一会長を中心に若干名で参加されているのが実情でしたが、今年は、滋賀県での開催でしたので、私も勉強のため参加をさせていただきました。

18日の住民プログラムでは、熊川宿と美山のかやぶきの里の2件の事例発表がありました。熊川宿は、景観整備を始めとする多くの取組み事例を藤本正夫さんがプレゼンテーションされました。一つの取組みが、今日では日本に誇れる熊川宿に発展することが出来たと感じました。これは行政の大きなバックアップと、まちづくり特別委員会が中心となって、さまざまな活動を地道に続けてきた結果であり、ハード面の整備だけでなく、人と人とのコミュニケーションも深まって良好な人間関係も構築できました。

熊川区のまともは、近隣火災通報システムの設置についてもみ

ることが出来ました。短期間で、予定通り完了することが出来たのも、お互いに協力し合うまとも

りのよさが大きく貢献したと感じました。空き家も多いことから、何かと難航を想像しておりましたが、正直言って本当に驚きました。

最終的に熊川区全体一二八戸で八八八台の火災報知機の設置となりました。設置には、国・県・町から大きな補助をいただきました。若狭町歴史文化課を始めとする、関係行政の皆さまのご理解とご協力、さらには、熊川宿のハード面だけではなく、まちづくりを中心とした区民全員の日々の活動が大きく寄与したと考えております。このシステム構築により、観光客のみなさんも含めた安全と安心のための財産として活用をしていきたいと考えております。

さらに、国道三〇三号の歩道整備や、西口公園向い側の駐車場の整備も行われます。これらについても、より良い熊川宿を創る観点から、みんなで取り組んで行きたいと思っております。

今年が重伝建選定15周年を迎え節目の年にもなりますので、さらなる熊川宿の発展のため、みんなを力を含わせて頑張りましょう。

熊川宿の山車の変遷

熊川宿伝統芸能保存会 平 尾 希 典

今から二三九年前、明和9年白石神社の屋根修理を記念に初めて山車が出たことが熊川の古記録にあることはよく知られています。

安永9年には桐実知の虫害で山車の巡行が中止になりました。派手な文化・文政時代に、黒塗りの山車に見送り幕を飾り、山倉も建てたため出費が嵩み中止となり、以後、上、中、下の順番で一台を出すことになりました。弘化3

年の大火で三台が山倉倉共に焼失、以後28年間中断、町奉行から村長の時代に移り、明治6年、一台が復元されました。

その後は極めて断続的に数回出ただけで昭和に入り、戦後の昭和27年、松木神社三〇〇年祭に山車が出て盛大に行われました。

私が初めて山車に参加したのはその頃でした。それから10年後、三一〇年祭の巡行を

最後に老朽化で使用出来なくなりました。さらに10年後の昭和48年、山車の代わりにトラックを飾り、子ども神輿と共に巡行する祭りが28年間続き、平成14年に48年振りに長年の夢であった山車が、文化庁のふるさと文化再興事業で全国多くの中から厳しい条件(長い歴史・現在も続けている)等をクリアし、この事業に始めから最後まで関わった多くの方々のお力添えにより、現在最高の技術で古い榎子式山車の原型を保った貴重な山車と見送り幕が復元されました。

二百年余りの時代の変遷の中、伝統を継承した先人を誇りとして、今後も永く熊川宿に伝わる固有の文化を大切に引き継いでいかなければならないと思えます。



山車巡行の様子(平成22年5月3日)

平成23年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会

事業計画 (H23.5)

5月18日 ～19日	全国伝建協議会総会出席 (滋賀県東近江市)
5月22日	ツアーマーチ協力
5月28日	第1回まちづくり委員会
6月	白石神社の清掃
7月	活性化部会七夕祭り・町並み対策・広報部会
7月下旬	町並み通信第23号の発行
8月	街道灯籠飾り
8月	重伝建選定15周年記念事業
9月	まちづくり・特産品の研修・交流
9月	第2回まちづくり委員会
9月	活性化・町並み対策・広報部会
10月2日	熊川いっぶく時代村(復興委員会主催) (同時開催 戦国時代行列)
11月	第34回全国町並みゼミ
平成24年	
1月下旬	町並み通信第24号の発行
2月	熊川宿まちづくり総集會
3月	平成23年度最終まちづくり委員会

<随時>

- ・日本風景街道支援事業の要望
- ・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り等
- ・ホームページ更新
- ・委員会、役員会、部会を開催
- ・まちづくり研修・交流会への参加

東北の大震災と津波、原発の恐ろしさを聞き、いろいろな事があつた中で、熊川宿は、蜆のピオトープの取組みで、

振り返れば、今年の豪雪、

これからも熊川区の皆様が協力して、落ち着いた町並みが末永く続きますよう念じております。

「おいでやす」「おおきに」といった言葉が板について、楽に口に出せるようになったのと同時に、他所から来られる様々な方との交流も出来、いろんな人との出会いにより、よい考えが浮んできたり、新鮮な空気にひたれるひと時になったりと一日一日が楽しく感じられるようになってきました。

地元では良しにつけ悪しきにつけ心の寄り処として崇め奉った行者さん。今更説明もいらなないと思えますが、靈験あらたかな役の行者像は、真言宗本山醍醐寺三宝院の三代理源大師の作と伝えられ、大師自作行者像三体の一つといわ

役の行者さん

大杉行者講代表 宮本重光

あの山の上にある行者さん、地元の方なら大抵の方はうなずいて下さる行者さん。ついこの間、(お名前を出して申し訳ないが)河合さんと昔話の中で、行者さんの日に山へ行くとお菓子が貰えるのでそれが楽しみです。山へ上がったこと、そう自分もそれが楽しみだつた昔が懐かしい。



役の行者像遷座法要 (平成23年5月7日)

※なお、若狭町歴史文化館で「役の行者展」が、8月31日まで開催されています。

れており、昭和39年4月に町文化財に指定されている。宝物として若狭町歴史文化課、熊川宿まちづくり委員会様はじめ地域の皆様様に支えられて今日に至つた訳ですが、皆様もご存知の通り行者堂の老朽化により、存続が無理という結論に至り、大杉行者講として断

腸の思いで閉山を決意致しました。その間いろんな経緯をたどりながら、歴史文化課のご尽力により着々と段取りが進められ、昨年10月から話を始めてから8ヶ月有余の時間が流れ、今年5月7日に遷座法要を区長様始めまちづくり委員会、区関係者、崇拝者、歴史文化課全員のご列席のもとに、得法寺ご住職積本先生の説経に合わせ厳肅に執り行われ、無事、町歴史文

今、思うこと

逸見 富美子

二週間の宿命を持ちながら飛び交う蜆を眺めていると、梅雨のうっとおしい気分も飛んでしまつてじつと見つめていた今日この頃です。

化館へお預り戴いたことを謹んでご報告申し上げたいと思います。私もこの大杉集落に骨を埋めるべく大杉の水を戴きながら早くも72年の月日が流れ、朝な夕なにご先祖様に申し訳なく、二五六六年の歴史ある役の行者像を自分達の時になぜ、どうして、自問自答を繰り返し自責の念に悩まされながら、またいつかは迎えに上がる時が来ることを祈る今日この頃です。

元保育所跡地に多数の蜆が飛び交うようになり、当時の宮崎先生、西野公民館長様や皆様の努力の甲斐あつて、今年は今までにない多くの蜆が飛び交うようになり、熊川宿の名所も増え、喜ばしい事と思えます。

平成22年度
熊川宿まちづくり総集会

とき…平成23年2月19日(土)午後2時
ところ…熊川児童館

主催…若狭熊川宿まちづくり特別委員会

宮本哲男副区長の挨拶に続き、森下裕町長が「熊川葛の復興や時代村など頑張っている。多くの人が定住して活性化しよう期待している」、松岡喜一議員は「みんな知恵を出して盛り上げてほしい」と話されました。

河合健一会長は、「この冬多くの雪が積もったが、もつとこの雪を楽しめないか」、「高齢化が進む中で空き家対策などのまちづくりをどのように進めていくかみんな考えて」と話されました。

続いて、町産業課の原田太輔主任から葛の再興活動について経過報告がありました。

次に、小浜湾でアマモを植える

活動をしているアマモサポーターズ代表の西野ひかる氏に講演いただきました。「エコ環境について」と題した講演の中で西野氏は、「アマモは海を浄化し、生き物の食物連鎖を支えている。その環境は護岸工事などにより激



アマモマーメイドプロジェクトは、「小浜湾を魚あふれる豊かな海に！」を合言葉に、小浜水産高校の生徒たちと市民が一緒に、2005年2月から進めている小浜湾の環境回復に向けた取り組みです。

2011年4月には、「第13回日本水大賞」の文部科学大臣賞を受賞されています。



減している。海が汚れた原因は、海が持っている浄化能力が低下し、川から流れ込む汚染物質が増えたため」と話され、さらに「川は地球の血管。山、川、田んぼの繋がりがあつてはじめて元気な海が保たれる」と続けられました。

また平成20年11月に熊川宿で開かれた若狭水紀行講座「どんぶらこ」を振り返りながら、環境保全の大切さを語られました。

家康も歩いた熊川宿とその歴史

江 合 河 恭 宿場館勤務

資料館に来られるお客様は、建築・歴史の先生方も多く、質問に答えられなかったことしばしば。「資料館の人がわからないでは困ります。勉強しておくように」と言われ、亀井清先生、永江秀雄先生に助けていただき、やっと説明出来るようになりました。

ある日、亀井先生が「貴女、自分で熊川のことを調べなさい。楽しみにしてますから」と言われ、お年寄りの方に聞き歩き、役場の古文書、焼見舞帳、逸見家香典帳等々調べ、やっと江戸末期の様子を知ることが出来ました。

古代より大陸文化の受入れ口として、日本海のほぼ中央に、小浜から今津(琵琶湖)へ横線真ん中に熊川、熊川を真つすぐ南下約50キロで京都の位置にあり、戦国時代、信長さん率いる朝倉攻めで信長様、秀吉様、家康様の三武将が共に熊川に泊り金ヶ崎へ。逃げ帰りは三武将共に鯖街道・別々の道を。大河ドラマの江では、小浜藩主

となられた京極高次様と共にお初の方が小浜へ、大坂夏の陣には和議のため、お初様は熊川の道を何度か通われたでしょう。

天正17年正月、浅野長政の諸役免除の判物を頂き、江戸初期には日本海側の産物を関西方面へ。最盛期には一日に三〇〇頭もの馬が琵琶湖へ。三、四度と往復した記録もあります。

その後、西航路と共に運送量は減り、江戸幕府が落ちつき、旅行ブームで西国巡礼の人々が一日三〇〇から四〇〇人、泊る宿駅として栄えました。

一八〇〇年代には小浜の海に魚がわいた、と表現されるほど多くの魚が揚がりました。特に鯖が多く、京までだと歩いて行ける、と魚を背持ちで、夜通しかけて歩いた道を今、鯖街道と呼ばれるようになりました。

その後、交通の発展と共に小売業が主となり、明治の頃には京の物は熊川で買うことが出来ると敦賀・舞鶴辺りからの客で賑わいました。

今、その頃の町家が数多く、国の重要伝統的建造物群保存地区として、鯖街道の熊川宿として、全国から多くの人たちをお迎えいたしております。

全国に誇れる熊川葛

若狭町産業課 特産振興課 室長 原 田 太 輔

儒学者の頼山陽が「熊川の葛は古野よりよほど上品にて…」と、腹痛に苦しむ母親へ熊川葛に添えて使ったように熊川葛は全国に誇れる特産品であり、熊川葛の振興は、熊川宿の活性化に欠かせない重要な取り組みであると思います。町と県では、昨年より熊川葛の振興策に関して熊川公民館で相談等させていただき、「熊川宿活性化チーム」の中で協議、検討をさせていただくことになりました。会議では、葛に関する他県の取組み状況や、神戸大学



製菓し作業とそれを見守る住居ら

名譽教授の津川兵衛先生を講師にお招きし、葛の歴史や活用方法についての勉強会も開催させていただきました。

そんな中で、西野公民館長さんより「会議だけでなく、実際にみんなで製造作業を実施してみよう」という提案があり、製造作業のことをよく知っておられる尾中富美子さんをはじめ、坪阪一之丞さん、宮本重光さん、日退義勝さんのご協力とご指導もいただき、作業を実施していただくことになりました。

この工場をお借りして、その葛根を粉砕し、でんぷんの洗い出しを行い、その後は、寒晒し作業を繰り返すというものでした。この寒晒し中、雪解けの冷たい山水で行う寒晒し作業を続けておられる尾中さんには本当に頭が下がる思いでした。この寒晒し作業を繰り返すこと24回、最初は泥色だった水も段々と透明度を増していき、最後には桶の底に純白の葛が姿を見せてくれました。

夫さん、袖長治郎さん、日退義勝さんには葛根からの葛粉製造という希少価値の優れた伝統技術を後世に引き継いでいただくため、引き続き活動の継続をお願いさせていただきました。4月に「熊川葛振興会」を発足していただきました。5月24日には、熊川葛振興会として森下町長と一緒に熊川宿おもてなしの会の方々が調理された葛ようかん等を持参して、西川知事にこれまでの取組みの報告をしていただきました。

最後にになりましたが、今回の取組みに対してご理解とご協力をいただきました熊川くず生産組合の尾中富美子さん、熊川葛振興会の皆様、そして熊川の多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

1/10

葛の勉強会「寒晒し」

(熊川宿総合整備推進委員会・若狭町)



熊川特産の葛を再興しようという勉強会を重ねている同委員会活性化チームのメンバーは、年末に掘り出した葛の根約75キロを砕き、寒晒し作業を行いました。区民や関係者20名余りが参加、見学しました。その後、交代で上澄みの水交換が行われました。

1/15

足助伝建建築部会様が来訪

足助伝建地区の答申・選定を前に、足助伝建建築部会の皆さんが熊川宿へ研修にいらされました。



一行は旧逸見助兵衛家や宿場館を見学、児童館で熊川宿まちづくりの歩みや伝建選定までの苦労話を聞いていただきました。懇親会では打ち解けた話も出て大変盛り上がりしました。なお足助地区は、平成23年6月に伝建地区に選定されました。

5/7

役の行者像 遷座法要

(大杉行者講・若狭町)



二五六六年の長い歴史を持つ大杉の役の行者堂は、お堂の老朽化により存続が困難となり、行者様を町の歴史文化館に預かっていただくことになりました。5月7日、行者様を信仰する大杉の住民代表はじめ関係者が断崖絶壁に建つお堂に集まり、得法寺住職による遷座法要が行われた後、行者様は背負われて下山、若狭町歴史文化館に運ばれました。

5/18

全国伝建協議会総会

(滋賀県東近江市)

第33回全国伝建協議会総会が滋賀県東近江市で開催され、熊川宿からも10名が参加しました。八日市文化芸術館で開かれた住民プログラムでは、熊川宿と京都府美山の北村かやぶきの里の住民組織の代表がまちづくりの取組みや活動について事例発表を行いました。



続いて、奈良女子大学生活環境学部教授の増井正哉先生が「五個荘金堂の町並み保存と町づくり」と題して講演。金堂地区の町並みの特徴を解説され、「これからは建物だけを保存するのではなく地域文化を保存継承していくことが大切」と提言されました。

その後、五個荘金堂伝建地区に移動して弘誓寺本堂を会場に、郷土芸能鑑賞会や情報交換会が開かれました。懇親会の半ばには、参加者も加わって江州音頭を唄って踊って、大いに盛り上がりました。

また帰り際には、行灯の点る夜道をスタッフの方々が街角に立ってお見送り下さり、心遣いを感じられました。

伝建大会は二日目、三日目もプログラムが組まれており、現地研修や分科会などが開かれました。期間中、晴天に恵まれ、各研修先では温かいおもてなしを受け、多くの参加者で賑わったようです。



5/22

ツーターマーチおもてなし



第20回記念となる今大会で、二日目のコースとなった熊川宿で、熊川区・まちづくり委員会・女性たちの協力により「長操編」一〇〇〇食が振る舞われました。あいにくの雨模様でしたが、長操編は好評で、参加者はお腹を満たして次のチェックポイントへ元気に出発されました。

6/1

近隣火災通報システムを整備

(熊川区・熊川区自主防災会)

報知器が民家などで火災を感知すると、両隣や向かいの民家と互いに無線で連動し、火災発生をいち早く知らせるシステムで、一人暮らしの高齢者や空き家などの留守宅も含めた設置は全国でも例が少ないそうです。今回設置した報知器は、熊川区的全世帯、計八八八個。国や県・町の支援をいただき、6月1日の設置義務化を前に取付けが完了しました。



6/18

ホタル鑑賞のタベ

(熊川宿ほたる生息研究会)

地区公民館と若鮎塾の協力で、ミニライブやパザールが開かれ、多くの親子が集まりました。

講演会で、蛍の先生草橋秀夫氏は、「地域あげての取組みは意義深く、出会い・環境・教育に有効」と話されました。鑑賞会場のピオトープと新道地係では、源氏蛍が幻想的な光を放って乱舞していました。



あとがき

3月11日に発生しました東日本大震災、大津波、さらには福島第一原発事故で被災されました皆様にご心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。がんばろう！日本。

時期は前後しますが、熊川宿では大晦日から断続的に降り積もった積雪が1月半ばには1mを超え、屋根雪を下ろす家屋が多く見られました。その後も遅い春の訪れや天候不順で、穏やかな春の日が少なかった気がします。そして梅雨入りしてからは一転して猛暑が続き、節電が求められる暑い夏がスタートしました。

熊川宿では一昨年から進めている防災まちづくり計画の一環で、近隣火災通報システムを整備されました。システムを使った防災訓練も行われました。

メディアでは毎日のように被災地や原発事故の様子を目にします。火災、自然災害、そして今回の複合災害など、あらゆる不測の事態に備えて日頃から防災意識を高めておく必要があると思います。

(編集委員)

おくらみち
御蔵道

かつて北川を往来した舟運の米がこの路地を通り、松木神社境内にあった蔵屋敷に至ったことからこの名がついたそうです。薬師花や秋桜など季節の草花が、板塀や石垣・水路と調和して情緒ある路地になっています。